赤れんが通信

北海道庁の金昭賢（キム・ソヒョン）国際交流員が、韓国の友好地域との交流事業及び北海道の情報などについて書いたレポートをご紹介します。

3月になりましたが、北海道はまだまだ冬です。今年は冬のまつりもコロナ前のように盛大に開催され、すべてを回るには体がいくつあっても足りないほどでした。私は陸別町で毎年2月初旬に開催される「人間耐寒テスト」（氷のかまくらで一夜を過ごすイベント）に参加したかったのですが、高齢化による人員不足などで開催が中止となりました。このまま社会問題が深刻化すると、今後、地域のイベントの様子は変化を余儀なくされるのではないかと思いました。

本格体験！日本のお正月

「一杯のうどん」という日本の小説をご存知でしょうか？それは、私が小学生の頃、韓国でも学級文庫に欠かせない人気作でした。しかし、その原作小説のタイトルが、実は「一杯のかけそば」だったことを最近になって気づき、とても驚きました。

翻訳版を読むと、母子3人が「寒い冬だから、温かいうどんを食べたんだね」と思ってしまいがちですが、もともとは、切れやすくて細長い麺の年越しそばを大晦日に食べることで、その年の厄を断ち切り、長寿を願る日本の風習が表れている小説だったのです。また、実在するお店ではありませんが、札幌の「北海亭」というそば屋が舞台となっている点は札幌の住民として興味深く思われる要素です。

韓国と日本のお正月連休は、時期（韓国は旧暦で祝う）も過ごし方も異なりますが、新年を迎えて白いお餅が入った料理を食べる共通点があると思いました。それで、今回は日本の新年の「餅文化」を体験してみました。

韓国でも日本でもお祝いの席には餅があります。新年に餅つきをしたり、赤ちゃんの生後100日を祝うために餅を用意することは両国共通の文化ではないかと思います。私も今年のお正月には、イベントが行われる地域を訪れ、人生初の餅つきをしてみました。

韓国では引っ越してきた時や新店舗を開店した時の挨拶回りにお餅を振る舞う風習が現在も続いています。それと同じように、日本では新築住宅の上棟式をする時、屋根の上から餅まきをするそうです。家の屋根の上から物を投げるなんて！「アパート（マンション）共和国」と呼ばれる韓国ではなかなか想像し難い風景です。

日本でお餅は正月飾りとしても使われます。２つの丸い餅を重ねてみかんを上に乗せた「鏡餅」は、神様への供え物であり、年神様の依り代を意味すると言われます。

11月からは、食べられる鏡餅をはじめ、それをモチーフにしたインテリア雑貨など、新年を迎えるための様々な商品が現れ始めます。年末が近づくと、北海道庁の1階ロビーにも巨大な鏡餅が登場します。

驚くことに鏡餅はただの飾り物ではありません。1月11日に鏡開きを行い、硬くひび割れた鏡餅を木槌などで割って、水に浸して加熱して食べるそうです。

韓国のお正月に「トックク」というお餅スープを食べるように、日本では焼いた餅を入れた「お雑煮」を食べます。年末年始休みの期間に、お雑煮が食べられるお店に行ってみました。

韓国のお餅はコシがあって歯ごたえがありますが、日本でよく食べる焼き餅は表面が硬くても中は柔らかいチーズのように伸びてくっつくので、食べる時に注意が必要でした。

韓国ではお正月連休が近づくと、餅による窒息事故の応急手当の方法がテレビなどで紹介されます。日本でも新年にお餅を食べる風習があるためか、お餅による窒息死亡事故の約4割が1月に集中しているそうです。

流氷を見に行こう！

この冬は道内で流氷が見られる地域を訪問しました。冬になると、ロシアのアムール川から北海道のオホーツク海まで流れてきた流氷が海を埋め尽くし、壮観な風景が広がります。このような景色が楽しめる時期は、およそ1月下旬から3月中旬までで、国内外から多くの観光客が流氷観光のためにオホーツク海沿岸地域にやってきます。

最初の旅行先は、札幌から約270km（ソウル-光州間の距離）離れている紋別でした。札幌駅から朝早く出発する日帰りバスツアーを利用しましたが、距離が随分遠かったので、半日以上をバスの中で過ごしました。

紋別では、北海道遺産にも登録されている砕氷船「ガリンコ号Ⅱ」に乗って、素晴らしい大自然を味わいました。手が届きそうな距離でうねっている流氷はもちろん、天然記念物のオジロワシやオオワシが防波堤の上に座っている姿も見られました。一時間ほど流氷を見て再び札幌に戻ってくる間には、北海道がどれだけ大きな地域であるかを改めて実感することができました。

▲北海道遺産「ガリンコ号Ⅱ」

▲流氷に埋め尽くされたオホーツク海

▲近くで見た流氷の様子

2回目の旅行先は、道内の代表的な冬の観光地として名高い網走です。十数年前、韓国で人気を博したバラエティ番組「無限挑戦」のオホーツク海特集編の背景となった地域で、当時の出演者たちはワカサギを釣って食べたり、飛び石のように流氷を渡る姿で笑いを誘いました。（※ガイドの同行なしで流氷の上に乗ると事故の恐れがあり、大変危険です！）

今回は、アルミ国際交流員と一緒に札幌市内の丘珠空港から女満別空港まで飛行機で移動しました。そして、到着地からすぐに「網走流氷遊覧チャーター」に搭乗して、約50分間上空から流氷を眺めるツアーに参加しました。個人的には、札幌を出てからわずか2時間で流氷が見られるという事実が感動的でした。

▲搭乗前の記念撮影タイム

▲空から眺めた流氷

▲キュンちゃんと旅する北海道

広々としたオホーツク海は、白いパズルのピースが散らばっているように流氷で覆われており、神秘感が漂っていました。さらに、雪に覆われた知床連山も視野に入ったので、静かで美しい北海道の冬景色を満喫できました。当日は低い高度で上空を回る遊覧飛行が行われ、海がかなり近くに見えました。そのおかげで、アルミ国際交流員はシャチが水面上に水を噴き出す瞬間を目撃したり、ワカサギ釣りのテントが並んでいる網走湖の風景をカメラに収めることができました。

この観光コンテンツは今後、冬限定の観光商品として開発される予定だそうです。流氷の季節が戻ってきたら、皆さんも是非、空からオホーツク海の流氷を眺める特別な経験をしてみてください！約510万人が居住する北海道の面積は、韓国の国土面積の約8割を占めるほど広く、道内だけで14の空港があります。函館、釧路、網走など、遠く離れた地域に移動する際は、短距離路線を活用すると快適な旅行ができます。

韓国文化講座実施

北海道庁の職員を対象に、今年度の韓国文化講座を5回にわたって実施しました。今年度の講座は、韓国の冬のキムジャン文化を紹介する「キムチ講座」、韓国の生活習慣などをクイズで学ぶ「韓国豆知識クイズ」、地方各地の観光スポットや郷土料理などを紹介する「韓国地方旅行」で構成されました。

他にも、大学入試制度や夜間自律学習、修学旅行、結婚文化、迷信と風習など、様々なテーマについて受講生と話をしながら両国の文化の違いや類似性を探ってみました。韓国では二日酔い症状の緩和に大豆もやしが入ったスープや辛いスープを飲むことが多いのですが、日本ではシジミの味噌汁を飲むということがわかりました。

北海道で楽しむウィンタースポーツ（第2弾）

北海道暮らしの醍醐味と言えば、ウィンタースポーツに触れる機会が多いことでしょう。今年は冬季オリンピックそり競技種目の一つである「リュージュ」を体験しました。仰向けの姿勢で滑走することから空気抵抗が少なく、スケルトンやボブスレーよりもスピードが速いことが特徴と言えます。

去年の記事（令和5年4月号）にてご紹介したスケルトンと同様に、リュージュも札幌市の藤野リュージュ競技場で体験会や各種競技が開催されました。現在、この施設は日本で唯一リュージュが体験できる場所だそうです。小学生以上であれば体験会に参加することができ、滑走経験者に限って大会への参加も可能です。

リュージュは、そりに仰向けに寝て「クーヘ」と呼ばれるそりの刃の先端を両足で挟み、力加減で方向を操縦します。スタートする時に勢いをつけてそりを押しながら乗り込むスケルトンとは違って、リュージュはそりに座った状態でコース横のグリップを両手で握り、反動をつけてタートします。滑走中は足に少し力が入っただけで方向が大きく変わってしまうので、繊細さが求められる種目だと感じました。

顔が地面に当たりそうなスケルトンよりトラックを滑走する恐怖感は少なかったのですが、仰向けに寝て首を少し上げた姿勢なので視界確保が難しかったです。今年は勇気を出して札幌市民スポーツ大会リュージュ競技と北海道リュージュ選手権大会などに出場しました。テレビ中継で観戦したウィンタースポーツの魅力を皆さんも札幌で感じてみてください。

▲スタート準備をする様子

▲運よく入賞できました！

おわりに

皆さん！あっという間に5年が経ちました。今月をもって北海道庁を退職することになったので、私の赤れんが通信は今回で最後になります。国際交流に取り組む両国関係者の努力や私が経験して感じた北海道の多彩な魅力が皆さんにもよく伝わっていれば幸いです。赤れんが通信が定期的に発行できるようご協力くださった方々をはじめ、今まで関心を寄せて応援してくださった読者の皆さんに感謝を申し上げます。興味深いアイテムを探して取材を企画し、体験した内容を紹介することは、新しい経験が好きな私にとってとても楽しい業務でした。赤れんが通信を担当することで北海道への愛着が深まり、皆さんからのフィードバックもたくさんいただいたおかげで一層成長できたと思います。4月に新しく赴任する韓国国際交流員がこれから「新たな視点」で綴っていく赤れんが通信にもたくさんの関心と声援をよろしくお願いします。ありがとうございました！

✓ 赤れんが通信バックナンバーはこちら

✓ 北海道庁 国際課 FACEBOOK

✓ **編集者・発行先**　総合政策部　国際局　国際課
北海道札幌市中央区北3条西6丁目
TEL：+81-11-231-4111　FAX：+81-11-232-4303